

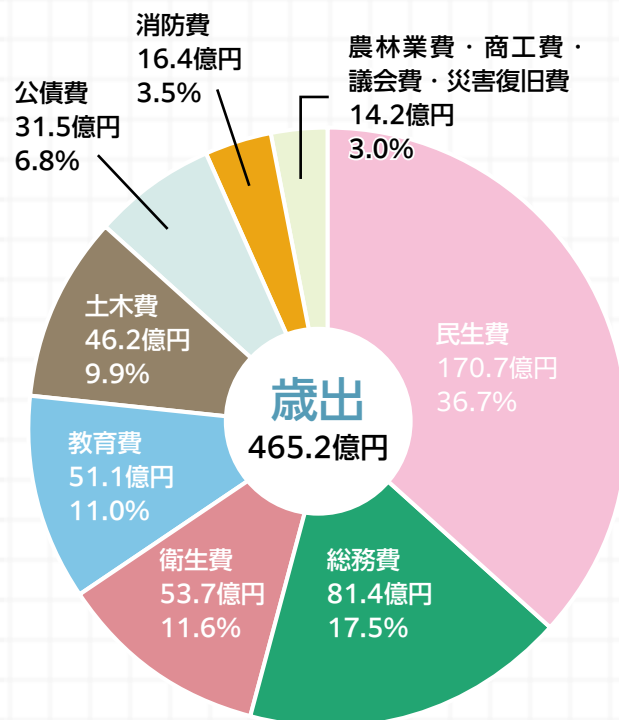
三田市の **お金** の使い道



令和7年度
一般会計

歳入総額 474.8 億円（前年度 469.8 億円 ⇒ 5.0 億円の増加）

歳出総額 465.2 億円（前年度 458.7 億円 ⇒ 6.5 億円の増加）



- **民生費**：こども・高齢者・障害者の福祉など
- **総務費**：文化振興、市民活動推進、防災対策など
- **衛生費**：健康づくり、ごみの収集、生活排水対策など
- **教育費**：学校教育、生涯学習、図書館の運営など
- **土木費**：道路・公園整備、都市計画など
- **公債費**：市債（借金）の返済
- **消防費**：消防・救急など
- **農林業費**：農業・林業の振興、農業基盤整備など
- **商工費**：商工業・観光の振興
- **議会費**：議会の運営
- **災害復旧費**：自然災害による被害の復旧

令和7年度に実施した主な事業

物 …物価高騰対策関連事業

6つの無料化

不妊治療ペア検査助成事業	42 万円	1 か月児健康診査実施事業	191 万円
不育症治療支援事業	13 万円	中学校給食費の無料化事業	1 億 3,387 万円
新生児聴覚検査推進事業	123 万円	子育て支援医療費助成事業	5 億 855 万円

民生費

物 物価高対応子育て応援手当給付事業（0歳から高校3年生までのこども1人当たり2万円の物価高対応子育て応援手当を支給）
3億2,167万円

物 こめ高騰対策後期高齢者生活支援事業（75歳以上の市民に米などの購入支援として商品券を配布）
3,679万円

総務費

物 家計応援給付金（1人当たり5千円の給付金を支給）
4億8,875万円

次世代モビリティ推進事業
581万円

おでかけサポート試験運行事業（本庄地区・広野地区）
536万円

教育費

物 学校給食費支援（保護者負担軽減）
1億3,988万円

市立認定こども園ありまふじ幼稚園の開園（通園バスの運行など）
1,423万円



衛生費

新ごみ処理施設（10年度開設）の整備事業

11億1,110万円



土木費

三田駅前Cブロック地区市街地再開発事業

12億5,089万円

道路植栽管理事業

2億2,503万円

\ 徹底解説 /

特集

令和7年度決算概要

- **収支** は **黒字** でした
- **貯金** は **増え** ました
- **借金** は **増え** ました



令和7年度の財政状況（決算）をお知らせします。
なお、数字は全て端数処理して表記しています。
※決算の詳細は、市HP（下記2次元コード）や財政課窓口でご覧いただけます。

問い合わせ = 市役所本庁舎3階 財政課（559-5018 FAX 563-1366）

※記載の決算内容は、9月の定例市議会に提出し、予算決算常任委員会で認定されました。



一般会計・特別会計

一般会計と特別会計^{*1}をあわせて **11.4 億円の黒字** でした

会計名	歳入決算額（A）	歳出決算額（B）	差引額（C=A-B）	翌年度に繰り越すべき財源（D）	実質収支額（C-D）
一般会計	474 億 7,879 万円	465 億 1,644 万円	9 億 6,235 万円	1 億 4,144 万円	8 億 2,091 万円
特別会計	228 億 4,469 万円	225 億 3,021 万円	3 億 1,448 万円	33 万円	3 億 1,415 万円
合計	703 億 2,348 万円	690 億 4,665 万円	12 億 7,683 万円	1 億 4,177 万円	11 億 3,506 万円

*1…特別会計とは、対象事業が限定されている次の5つの会計のこと ①国民健康保険 ②公営墓地整備 ③駐車場 ④介護保険 ⑤後期高齢者医療

企業会計（市が経営する公営企業3事業の会計）

		収益的収支 ^{*2} （税抜）	資本的収支 ^{*3} （税込）	概要
①水道事業	収入	27 億 8,731 万円	4 億 3,738 万円	収益的収支は、給水人口が減少傾向にありますが、3億3,689万円の純利益を計上しました。 資本的収支では、安全な水道水を安定的に供給するため、水道管路の布設替え工事の他、浄水場などの制御盤の更新、電線の複線化工事などを実施しました。
	支出	24 億 5,042 万円	9 億 5,467 万円	
	差引	3 億 3,689 万円	△5 億 1,729 万円	
②下水道事業	収入	29 億 5,670 万円	8 億 2,687 万円	収益的収支は、継続した経営努力により、1億5,883万円の純利益を計上しました。 資本的収支では、適正な機能維持を図るため、マンホール蓋の更新工事や中継ポンプ機器更新工事、国道雨水管整備工事などを実施しました。
	支出	27 億 9,787 万円	15 億 7,459 万円	
	差引	1 億 5,883 万円	△7 億 4,772 万円	
③市民病院事業	収入	101 億 4,465 万円	9 億 4,617 万円	収益的収支は、救急患者の受入強化などにより診療収益が大幅に増加したものの、人件費や材料費などの高騰に伴い費用も増加したことから、4億8,793万円の純損失となりました。資本的収支では、療養環境の改善を図るため、空調機器の熱源更新を実施するなど、良質な医療サービスの提供に努めました。
	支出	106 億 3,258 万円	11 億 5,386 万円	
	差引	△4 億 8,793 万円	△2 億 769 万円	

※資本的収支の不足額については、内部留保資金などで補填しています。

*2…収益的収支とは、毎日のサービスを提供するために必要な経営に関する収入と支出

*3…資本的収支とは、施設や設備の整備など投資的な事業や、企業債（借金）に関する収入と支出

今後 10 年間の財政収支見通し



10 年間の収支見込みはマイナス 82 億円

新ごみ処理施設整備をはじめとした大規模投資事業や、その他の財政需要による影響を把握し、今後の方向性を検討するため、8年度～17年度の10年間の財政収支見通しを作成しました。物価上昇の見通しなどを含む最新の状況を反映した結果、10年間で82億円の収支不足が生じる可能性があります（7年2月算定では、7年度～16年度の10年間で93億円の収支不足を見込んでいました）。

課 題

■ 令和 11 年度から収支不足が続くおそれ

物価・賃金などの上昇に伴う経常経費の増加や、大規模投資事業の実施およびそれに伴う公債費の増加により、支出が収入を上回る状況が懸念されます。こうした状態が続くと、将来のために蓄えてきた貯金を取り崩さざるを得なくなります。

■ 収入に占める借金返済の割合が高くなるおそれ

1年間の収入のうち何%が借金の返済に使われているかを示す指標を「実質公債費比率」といい、三田市はこの比率が、17年度には12.7%まで上昇する見込みです。18%以上になると「起債許可団体」に指定され、新たに借金をするに当たって県の許可が必要となり、まちづくりの自由度が低下してしまいます。

そうだ！財政ロードマップを見てみよう！



財政ロードマップによる取り組み

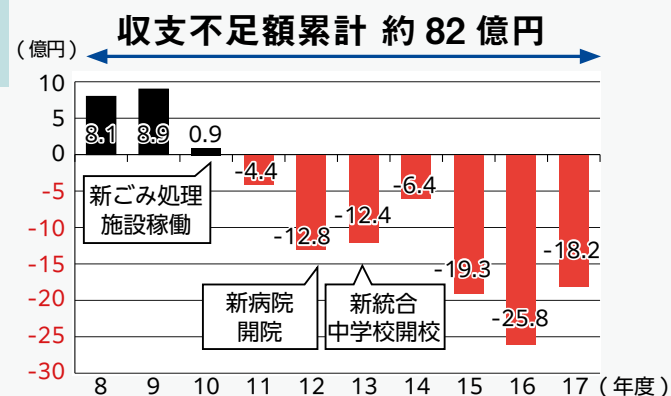
今後見込まれる収支不足や行政運営上の課題を踏まえ、その解決への考え方や具体的な道筋を示す「三田市未来への財政ロードマップ」を7年度に策定しました。右表（P6 下段）は、ロードマップの12の戦略ごとに、財政収支見通しと同様に物価上昇などの影響を加算した上で、効果額を試算したものです。8年度～17年度の10年間で66億円の効果額を見込んでおり、この間の収支不足は16億円まで縮小する見通しです。現時点で効果額を数値化できていない戦略については、取組内容を具体化して定量目標を設定し、さらなる収支不足の解消を目指します。今後は、各年度の収支改善とともに、市民意見も聴きながらロードマップの取り組みを着実に進め、進捗と効果を検証し、持続可能な財政構造の構築に取り組みます。状況については、随時お知らせします。

■ 財政ロードマップとは？

市が目指すまちの姿を実現するため、4つの取組方針と12の戦略を掲げています。さらに各戦略に基づく具体的な計画として、第1次から第3次実行計画を策定し、年度ごとの取組目標を設定した上で、適切な進捗管理を行います。



▲ 市 HP
（財政ロードマップ）



今後の方向性

■ 必要な行政サービスを確保しつつ、総人件費の抑制、既存事業の見直しなどにより経常経費の増加抑制と安定的な収入確保を行うことで、収支の改善を図ります。

■ 将来の財政負担を予測しつつ、長期的な視点で、借金を伴う公共施設などへの投資事業を管理する必要があります。また、施設の整備や改修に当たっては、人口減少や価値観の変化に対応し、時代に合わせた在り方へと見直すことで、市の財政規模に見合った支出に抑えながら、より大きな効果を生み出す投資に努めます。



具体的にはどんなことに取り組むのかな？

Q. 貯金はいくら増えたの？

A. 貯金は 7.9 億円 増えました

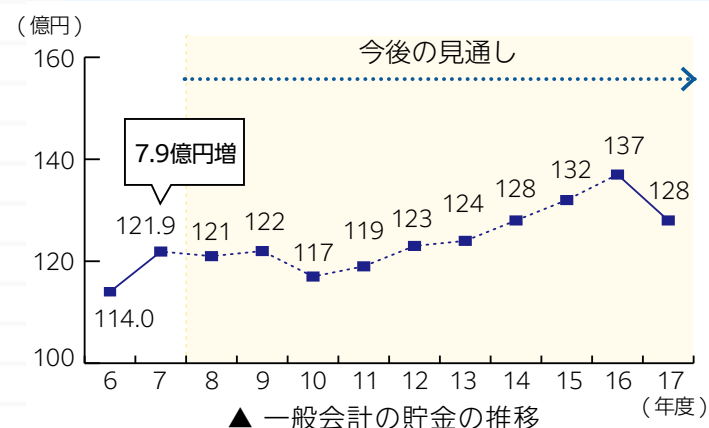
新ごみ処理施設整備や、こどもの教育支援事業などで8.2億円を取り崩しましたが、引き続き収入に見合った支出に取り組み、前年度の剰余金の積み立て（財政調整基金）に3.9億円、新市民病院の整備費用を含む地域医療の確保・充実に向けた地域医療確保基金を新たに3.1億円積み立てるなど、前年から基金残高を7.9億円増やすことができました。

【なぜ黒字なのに貯金を取り崩すの？】

将来の大きな支出に備えた市の貯金を「基金」といい、使用目的を決めて積み立てる各基金と、用途を決めず剰余金などを貯蓄する「財政調整基金」があります。大きな支出が必要な際に、その目的に応じて基金を取り崩し、その年の収入に左右されずに、安定した行政サービスを行うことができます。

【今後の貯金の見込み】

公共施設等整備基金・地域医療確保基金の積み立てにより、基金は増加傾向ですが、今後は新ごみ処理施設整備事業などへの取り崩しなどを予定しており、健全財政を維持すれば、17年度には128億円になる見込みです。



Q. 借金はいくら増えたの？

A. 借金は 0.2 億円 増えました

新ごみ処理施設整備や三田駅前Cブロック地区の再開発整備などに必要なお金を借りました。

【なぜ借金をする必要があるの？】

■ 毎年の支出額が偏らないようにするため

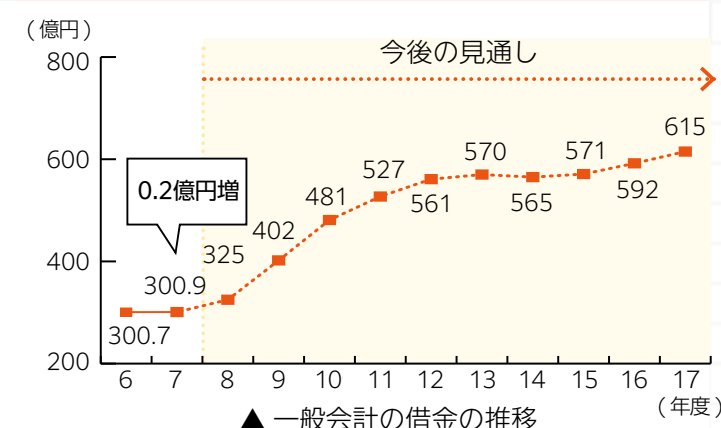
建設事業費などの大きなお金を1年で払い切るとは難しいため、長期間で少しずつ返済することにより、1年ごとの支出額を均一にします。

■ 現在と将来の市民の負担を公平にするため

今後も使う施設の建設費用を、現在の市民だけでなく、将来施設を使う市民にも負担してもらうため、分割で返済しています。

【今後の借金の見込み】

老朽化が進む公共施設などの改修や新ごみ処理施設整備事業、三田駅前Cブロック地区の再開発事業や新統合中学校建設事業などの大規模投資に伴う新たな借入れが重なることで、17年度には615億円まで増加する見込みです。



【第 1 次実行計画（7年度～9年度）初年度取組実績】

7年度の効果額は、目標 8,550 万円に対し実績 5,690 万円でした。引き続き、実行計画に掲げる効率的・効果的な行政運営の推進や持続可能な財政運営などの取り組みを進めていきます。

▼ 財政収支見通し上の財政効果見込み額一覧

①人口減少抑制による税収基盤の強化	787.5	⑦公共施設の最適化	1,028.9
②寄附・クラウドファンディングの推進	203.3	⑧施設更新に伴う財政負担の分散化	—
③税収確保に向けた取組の推進	22.3	⑨補助金等の適正化と効果的な支援の仕組みの構築	—
④受益者負担(使用料・手数料等)の適正化	38.4	⑩地域社会の変化を踏まえた事業手法の検証と再構築	—
⑤その他の財源確保	—	⑪新たな公民連携スキームの構築と推進	—
⑥市有財産の有効活用	2,635.4	⑫組織体制の最適化と業務の効率化	1,879.2
		財政効果見込み額 合計	6,595.0

※具体的な効果額が未計上のものは「—」で表示しています。



▲ 市 HP
（取組実績）